

災害対応を支える情報共有の取り組み

社会防災領研究域 総合防災情報センター／防災情報研究部門 吉森和城、上田啓瑚、川崎正貴、長谷川薫

Point

- 災害情報をクロスさせて災害全体を見通す「防災クロスビュー」
- 災害対応機関への情報支援を行う災害時情報支援チーム（ISUT）に参画
- これらの取り組みを通じたアクションリサーチを実践

概要

防災クロスビュー：bosaiXview

防災クロスビュー：bosaiXviewは、SIP4D（基盤的防災情報流通ネットワーク）等により共有された災害対応に必要な情報を集約し、統合的に発信しています。

平常時は過去の記録や現在の観測、未来の災害リスク、災害時は発生状況、進行状況、復旧状況、関連する過去の災害、二次災害発生リスクなどの災害情報を重ね合わせて（クロスさせて）、災害の全体を見通し（view）、予防・対応・回復の全フェーズに必要な情報が共有できる仕組みを目指しています。

令和6年度(令和6年8月時点)は、常時開設を行う防災クロスビュー(防災クロスビュー：気象災害版)、災害発生時に開設する防災クロスビューを公開しています。

ISUT

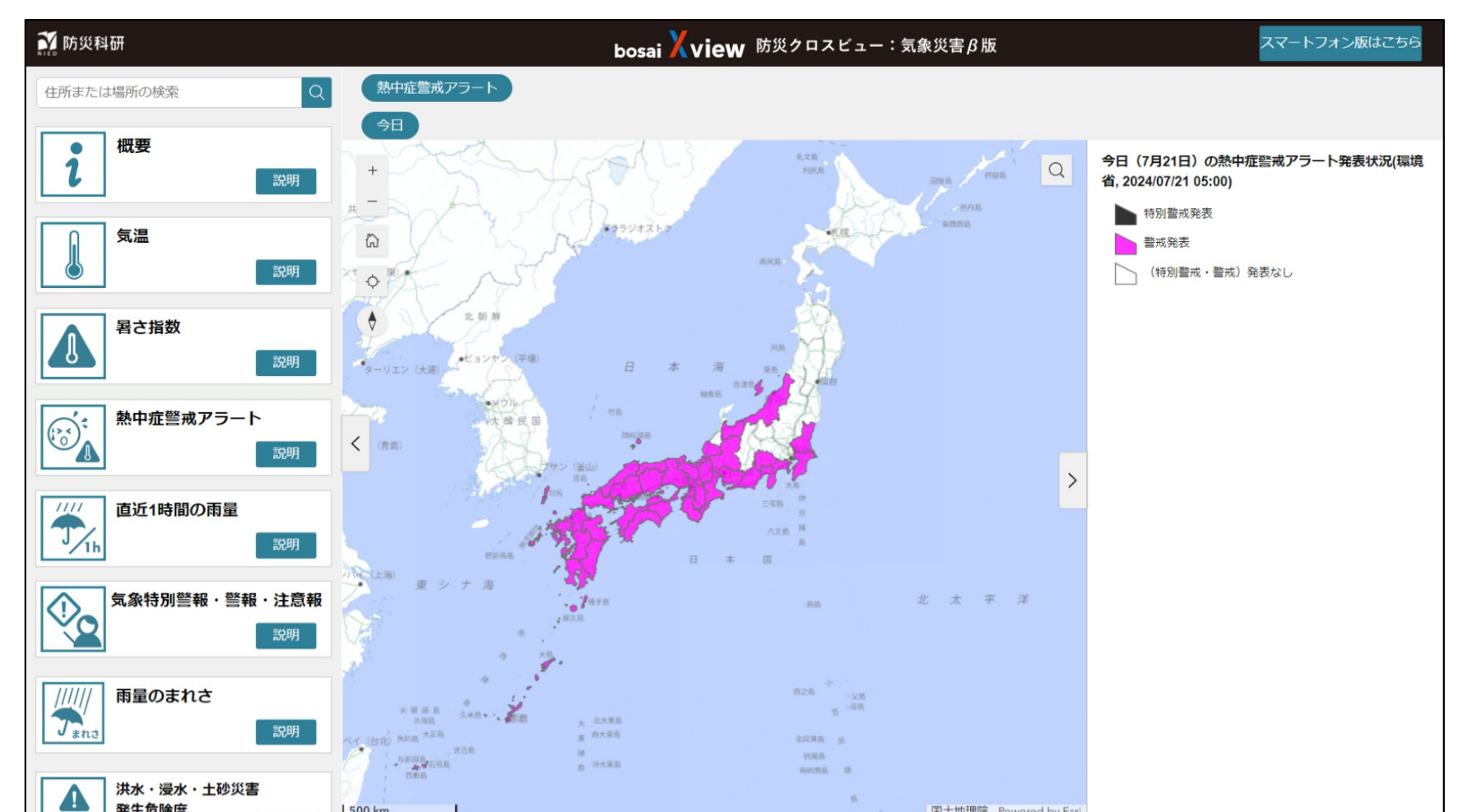
内閣府防災と連携し、災害時情報集約支援チームである「ISUT（Information Support Team）」の活動に参画しています。

平成30年度よりこれまで計14の災害でISUTを道県庁に派遣し、地図による情報共有の支援を行っています（令和6年8月時点）。

情報支援にあたっては、被災都道府県の庁舎内に活動拠点を置き活動を実施しています。主な活動内容は、府省庁・地方自治体・研究機関・民間が提供する災害情報や、現地で入手した情報を集約し、Web上で地図による可視化を行い（Web-GIS）、現地の災害対応者に情報提供を実施することです。また、情報支援活動においては、現地のニーズに応じた情報提供を実施しています。



災害時に開設する防災クロスビュー(例：令和6年9月20日から大雨)



常時公開する防災クロスビュー(防災クロスビュー：気象災害版)



ISUTの活動事例

